

## 講演

土木學會誌 第一卷第六號 大正四年十二月

### 土地收用法ニ就テ

法學博士 岡野敬次郎

1963

諸君、私ハ土木學會會長タル古市博士ヨリ諸君ニ對シテ一場ノ講演ヲスルヤウ御懇囑ヲ受ケマシテ甚タ躊躇致シタノテアリマス。私ハ御承知ノ通り法律ヲ專攻スル者テアリマシテ、專門違ヒノ諸君ニ對シテ御話ヲスルハ甚タ適當テナイト考ヘタノテアリマス。然ルトコロ却テ專門違ヒノ方カ宜イノテアルト云フ古市博士ノ御話テアリマシテ、此點ニ於テハ先ツ私ハ及第ヲ致シマシタ。次ニ御話ヲスルニシマシテモ何レ土木ノ事ニ關係アル法律テナケレハ御參考ニモ相成ルマイ、土地ノ收用ニ就テハ行政訴訟ノ上ニ於テ僅ナカラモ幾分ノ經驗ヲ有ツテ居ルノテアリマスルカラ土地收用ノ制度ニ就テ御話ヲシタナラハトウテアラウカト云フコトヲ申シマシタトコロ、土地收用ノ制度ハ至極宜シイト云フ古市博士ノ御答テアリマシテ、私ハ第二ニ合格致シマシタ。依テ一應安心シテ御受ヲシテ出席致シマシタ。次第テアリマス。去リナカラ法律家カ法律真イ事ヲ申シマシテモ法律家タル者ハ幾分ナリト趣味ヲ有ツカモ知レマセヌカ、專門違ヒノ諸君ニ取テハ或ハ全ク味ノナイ事トハ思ヒマスカ、是ヨリ私ノ御話スルコトカ御參考ノ一端トモ相成リマスレハ即チ私ハ最後ニ及第ヲシテ首尾克ク卒業生トナル譯テアリマス。此卒業甚タ覺束ナイトハ思ヒマスカ、試ミニ約一時間ヲ限トシテ一場ノ御話ヲ致シテ見マス。尤モ土地收用ノ事ニ就キマシテハ私ノ職務ノ上

行政法學者ノ著書ナトモ幾分參考致シテ居リマスルカ、此等ノ著書ハ固ヨリ大體ノ事ヲ述ヘルニ止マツテ居リマシテ詳細ノ點ニハ論及シテ居リマセヌ、却テ其ノ細カイ點カ御參考ニナルカモ知レマセヌ、或ハ諸君ノオ耳ニ新ラシイ事カアルカトモ思ヒマス、若シモ此第三回ノ試験ニ及第スルコトヲ得マシタナラハ私ニ取ツテ無上ノ光榮テアリマス。

土地ノ收用トハ何テアルカト申シマスルト、法律學者其説ク所ヲ異ニシテ居ル點モアリマスルカ、法律學ノ上ニ於テ六ケシイ事ハ蓋措キマシテ通例ノ定義トテモ申ス所ヲ云ヘハ公ノ起業ノ爲ニ賠償ニ代ヘテ土地ノ所有權其他ノ物權ヲ徵收シテ之ヲ國家又ハ第三者ニ移轉スル行政處分テアルト斯ウ申スノテアリマス、而シテ公ノ起業ノ爲ニスルトハ我收用法ニ於テモ公共ノ利益トナルヘキ事業ト云フコトヲ明文ニ掲ケテ居リマス、次ニ土地ノ所有權其他ノ物權ヲ徵收スルト云フ事テアリマスカ、收用トハ必ラスシモ所有權ヲ剝奪スルノミテハナイコトハ御承知ノ事ト存シマス、起業者ハ或ハ國家ナルコトアリ、公共團體ナルコトアリ、或ハ一個人ナルコトモアリマシテ是等起業者ニ徵收シタル所有權ヲ移轉スルコトヲ目的トスルモノテアル、又收用ハ行政處分テアリマス、即チ收用權ヲ有スル者收用權ノ主體ハ何テアルカト云ヘハ常ニ國家テアリマス、他ノ辭ヲ以テ申セハ國家カ收用處分ヲ行ヒ、之ニ依テ權利ヲ起業者ニ移轉セシムルノテアル、通俗ニ收用者ハ起業者テアル、公益事業ヲ計畫スル者カ收用ノ主體テアル様ニ申シマスケレトモ是レハ正確ナル法律上ノ用語テハアリマセヌ、收用者ハ常ニ國家テアツテ、縱令一個人ノ經營スル事業ノ爲ニ收用スル場合ニアツテモ國家カ收用ヲ行ツテ、之ニ依テ起業者タル個人カ權利ヲ取得スルノテアリマス、即チ收用ノ結果カ一個人ノ利益ニ歸スルノテアル、終ニ賠償テアリマスカ、賠償ニ付テハ敢テ註釋ヲ加ヘルノ要ハナイト思ヒマス。

以上述ヘタルハ行政法學者ノ一般ニ説ク所テアリマシテ、之ヲ述ヘマシタノハ是ヨリオ話スルコ

トノ根本ヲ此處ニ置クカラテアリマス。

扱テ土地ノ收用ト申スモノハ土地ノ所有者タル個人カラ見マスト、洵ニ壓制ナル處分テアリマス。御承知ノ如ク所有權ナルモノハ侵スコトノ出來ナイモノテアツテ、所謂所有權不可侵ノ原則ハ憲法第二十七條ノ明定スル處テアリマス。唯公益ノ爲ニ必要ナル處分ハ法律ヲ以テ定ムルコトニナツテ居リマシテ、土地收用ノ制度カ法律ノ形ヲ以テ制定セラレタルハ即チ此ノ憲法ノ明條ニ基クノテアルハ申ス迄モナイコトテアリマス。要スルニ法律ハ公益即チ公共ノ利益ノ爲ニ一個人ノ權利ヲ犧牲ニスルノテアツテ、國家ノ制度トシテハ當然ノ事理テアリマス。土地ノ收用ハ國家ノ制度トシテ認メネハナラヌ制度テアリマスカ、之ヲ個人ノ側カラ觀マスト、國家ノ強制處分テアリマシテ、所謂國權ノ命令ニ依テ個人ノ意ニ反シテ所有權其他ノ權利ヲ剝奪スルノテアリマスルカラ個人個人ニ於テハ最モ痛苦ヲ感スルモノト云ハネハナラヌ。去レハ所有者ニ對シテハ十分ノ賠償ヲ與ヘネハナラヌハ固ヨリ當ニ然ルヘキ所テアリマス。然ルニ個人ヲシテ雷ニ公益ノ犧牲タラシムルノミナラス個人ノ精神的ノ痛苦ニ加フルニ財産上ノ損失ヲ蒙ラシムルコト、ナツタナラハ實ニ文字通りノ壓制處分テアツテ、極メテ殘酷ナル措置ト謂ハネハナラヌ。而シテ是ハ收用ノ法律上ノ本體カラ申スノテアリマスカ、收用法ニ定ムル收用ノ手續上カラ視テモ私ハ我收用法ハ所有者タル個人ノ權利ヲ制限シ之ニ壓迫ヲ加フルモノ甚タ甚カラスト考ヘルノテアリマス。

第一ニ我收用法テハ公益事業ノ認定ハ原則トシテ内閣ニ於テ之ヲ爲スト定メテアリマス。此事業ノ認定ヲ行政機關ニ委任スルハ現代ニ於テ汎ク行ハル、所テアリマシテ、私ハ強チ之ヲ不可ナル制度ト稱スルノテハアリマセヌカ、英米其他獨逸ノ或聯邦ニ於テモ又獨逸帝國憲法ニ於テモ事業ノ認定ハ立法行爲ニ依テ之ヲ爲スモノト定メテ居リマス。又佛國千八百四十一年ノ法律ニ於テハ事ノ重大ナルモノハ立法ノ方法ニ依リ、否ラサルモノハ行政官廳ヲシテ之ヲ認定セシムルコトニ

定メテ居リマシテ、此法律ニ依リマス。ト國道、縣道、運河、鐵道、國其他公共團體ノ經營スル船渠等ハ皆法律ヲ以テ認定スルコトヲ必要トスルノテ、即チ重大ナル事件トシテ一々法律案ノ形ヲ以テ議會ニ提出シテ其協贊ヲ經ルノテアリマス。事ノ稍輕キモノハ勅令ヲ以テスルノテ獨國ノ學者中ニモ此佛國ノ制度ニ贊成シテ居ル者モアリマス。併シ法律ヲ以テ議會ノ協贊ニ依リ事業ノ認定ヲスルコトノ利害得失ハ猝ニ判斷シ難イノミナラス、私ハ寧ロ我國ノ法律ノ如ク行政官廳ニ認定權ヲ與フルコトヲ是認スル者テアリマス。ルカ、外國ノ法律ヲ見テモ如何ニ個人ノ權利ヲ尊重セネハナラヌトスルノ趣意ハ明ニ看取スルコトカ出來マス。

第二ニハ内閣ニ於テ事業ノ認定カアツタトキハ地方長官ハ起業者ノ申請ニ依テ收用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ、又ハ之ヲ土地收用者ニ通知スヘシトアリマス。斯ク公告又ハ各別ノ通知ト定メタルモノ、私カ行政裁判所ニ職ヲ奉シテ以來二年ニ滿タヌノテ、經驗ニ頗ル淺イノテアリマス。ルケレトモ、行政訴訟トシテ裁判所ニ現レタル事件ニ就テ見マス。ト收用スヘキ土地ノ細目ハ唯公告スルノミテアツテ、土地所有者ニ各別ニ通知ヲシタル例ハ曾テ見聞シマセヌ。成程法律ハ公告スルカ或ハ通知セヨト定メテ居ツテ何レカ其一ヲ爲セハ足ルモノトシテ居ル故、極メテ簡便ナル公告ニ依リ、各土地所有者ニ通知スルカ如キ面倒ヲ執ラヌハ自然ノ事、無理ナラヌ事テアラウト思ヒマス。去リ乍ラ或ハ官報ヲ以テ公告シ、或ハ其土地ノ公報ニ掲載スルトシテモ果シテ各土地所有者カ知ルテアリマセウカ、既ニ法律ノ命スル公告ヲシタノテアルカラ各土地所有者ハ之ニ依テ知ラネハナラヌ、若シ知ラヌ者カアツタラソレハ寧ロ其者ノ懈怠テアルト主張スルカ穩當テアリマセウカ、公告ヲシタ以上ハ法律上ノ手續ハ完全ニ盡シタモノテアルト云ハレテハ土地所有者ニ取リテハ迷惑至極ノコトテアラウカト思ヒマス。素ヨリ事業ノ計畫セラル、ニ當ツテハ收用セラルヘキ範圍ノ土地所有者ハ其計畫ノアルコトヤ、場合ニ依テハ自己ノ土地カ或ハ收用セラル、ニ至ルヘキ

ヲ知ルコト敢テ珍ラシイコトテナイノミナラス、知ラサル様ナ迂濶ナ所有者ハ尠イカモ知レヌ。土地所有者モ必スヤ利害ノ關係カラ之ヲ知ルコトヲ務ムルテアリマセウ。併シ知ラヌハ事實ノ問題テアツテ、法律カ土地所有者ニ知ラセルコトヲ命スル以上ハ個人ノ權利ヲ重シテ各土地所有者ニ通知スルノ手續ヲ行フカ適當テハアリマスマイカ、極端ナル議論ノヤウテアリマスカ、若シ各土地所有者ハ實際知ツテ居ル、知ラヌ等ハナイト云フナレハ公告モ通知モ全ク必要テナイト云フ結論ニ達スルノ理テアリマス。法律カ公告スルカ、或ハ通知スルカセヨト定メテ居ツテ通知ヲ強制シナイカラト云フテ、公告ノミヲ爲シテ夫テ宜シイトスルハ行政官トシテ適當ノ措置テハアルマイト思ヒマス。事ニ收用ニ當ル者ハ身ヲ土地所有者ノ側ニ置テ能ク其ノ痛苦ヲ察シ、公告ニ加ヘテ通知ヲ爲スコトヲ慣例トシタイト思ヒマス。是レ蓋シ事業ノ執行上ニ於テモ圓滑ニ進捗ヲ圖ルノ手段テアルト考ヘマス。

第三ニハ地方長官カ公告ヲ爲シ、或ハ通知ヲ爲シタル後ハ起業者ハ三日前ニ日時及ヒ場所ヲ通知シテ、其土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得ルノテアリマス。是ハ收用ヲ遂行スルニ必要ナル豫備手段テアリマスカ、其調査ヲ作ルニ當ツテ市町村長ノ立會ヲ以テスルノ實例ハ甚タ多イヤウテアリマス。此市町村長ノ立會ヲ以テ地上物件ノ調査ヲ爲シテ其調査ヲ作ルコトハ亦法律ノ認メテ居ル所テアリマスカ、其實例ノ少ラヌハ敢テ不思議テハアリマセヌ。然レトモ如何ナル場合ニ市町村長ノ立會ヲ以テ調査ヲ作ルカト云ヘハ法律ハ土地所有者カ調査ヲ作ルコトヲ拒ムト云フテ居ル、法律ハ唯拒ムト定メテ居ルカ、文辭ノ通りニ土地所有者カ拒絶ノ意ヲ表シタ場合ノミヲ稱スルナラハ實ニ明々白々テアリマスカ、左様ナ簡單ナルコトテハアリマセヌ。所謂調査ヲ作ルコトヲ拒ムニハ種々ノ場合カアリマシテ、中ニ就テ最も多ク裁判所ニ現ハル、實例ハ調査ヲ作ルニ當ツテ土地所有者ニ通知ヲシタルニ拘ラス所有者カ指定ノ日時ニ指定ノ場所ニ來ナカツタ、或ハ

地上物件ノ員數ニ付テ意見カ合ハナイ、從テ起業者カ調書ニ記載シタ事ニ異議ヲ唱ヘ、遂ニ議合ハ  
 スシテ現場ヲ去ツタト云フヤウナ場合カ多イヤウテアリマス。是等ノ場合ニハ限リマセヌカ、實例  
 トシテハ斯ノ如キカ最モ行政訴訟トシテ現ハレテ來ルカト思ヒマス。ソコテ先ツ土地所有者カ立  
 會ハナカツタ場合ハト申シマス。其立會ヲ求ムルニハ通常書面ヲ以テ土地所有者ニ通知スルノ  
 テアリマス。其通知ニ付テ第二十條ノ定ムル三日ノ期間ヲ存スルコトカ必要テアルカ、トウカ或  
 ハ立入調査ニハ三日前ニ通知ヲ要スルコト明ナレトモ調書ヲ作ルハ全ク格別ノ事テアツテ法律  
 上三日前ノ豫告ハ必要テナイト論スル者カアリマス。此問題ハ姑ク疑問トシテ置キマシテ、縱令三  
 日前ノ通知ハ調書ノ作成ニモ必要ナリト假定シテモ僅々三日ニ過キヌノテアリマス。僅ニ三日ノ  
 短期テアリマスカラ土地所有者ハ如何ナル故障カアツテ當日立會フコトカ出來ヌカモ知レヌ、殊  
 ニ所有者ハ皆其土地ノ所在地ニ居ルトハ限ラヌ、十分ニ餘日ヲ存シテ通知シタナラハ繰合セテ立  
 會フカモ知レマセヌカ、僅ニ三日テハ隨分差支ノアルコトハ少クアルマイト想像サレマス。立會フ  
 意カアツテモ事實立會ヒ兼ヌルコトハ必スアリマセウ。此ノ如キ場合ニ直ニ市町村長ノ立會ヲ以  
 テ調書ヲ作ツテ、而モ此調書ノ記載事項ニ對シテ土地所有者ニ於テ異議ヲ唱フルコトカ出來ヌト  
 シタナラハ何タル殘酷ナ處置テアリマセウ。土地所有者ニハ迷惑至極ト云フヘキテアリマス。故ニ  
 後日ニ至テ土地所有者カ調書ニ就テ彼是異存ヲ言ヒ訴訟ニ於テ之ヲ主張スルハ決シテ少クナイ  
 ノテアリマス。而シテ法律ハ曰ク「土地所有者ハ調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス」  
 ト又地上物件ノ員數ニ爭アル場合モ調書ノ作成ヲ拒ミタリト云フヘキカ、或ハ然ラン、此場合ニ所  
 有者ノ異議ニ拘ラス調書ヲ作ツテ、所有者ハ亦調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述ヘルコトヲ得ス  
 トシテ之ニ服從セネハナラヌカ、若シ然リトセハ殘忍酷薄ナル規定ト謂ハネハナラヌ。抑調書ノ記  
 載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス」トハ如何ナル意義ヲ有スルカ、其解釋ニ付テハ收用法ノ

明文上大ニ疑ノ存スル所テアルト思ヒマス。此規定ハ起業者ニ取ツテモ亦土地所有者ニ取ツテモ利害ノ繫ル所甚タ重大テアルニ拘ラス、今日ニ至ルマテ定マリタル判例ナキノミナラス、其解釋ノ資料トナルヘキ裁判サヘナキハ不思議千萬テアリマス。從テ今日ニ於テ解釋上ニ種々ノ説カアル例ヘハ所有者カ立會ハナイテモ其立會ハヌコトニ相當ノ理由カアレハ立會ヲ拒ミタルモノトシテ、直ニ市町村長ノ立會ヲ以テ調書ヲ作ルヘキモノテナイ、又縱令調書ヲ作ルコトハ止ムヲ得ストシテモ其調書ニ記載シタル事項ニハ土地所有者ハ異議ヲ唱フルコトヲ得ルノテアル。斯ノ如クニ論スル者ガアリマス。又調書ニ記載シタル地上物件ノ員數ニ付テモ土地所有者ハ現ニ其場ニ在ツテ員數ニ就テ争ツテ居ツテ、コレカ爲メ土地所有者ト共同シテ調書ヲ作ルコト不能ニ屬シ所有者佛然トシテ其場ヲ去リ於是市町村長ノ立會ヲ以テ調書ヲ作ツタナラハ其調書ヲ以テ土地所有者ヲ拘束シ、而シテ所有者カ何等異存ヲ言フコトカ出來ストアツテハ不條理ノ極テアル。故ニ斯ノ如キ場合ニハ調書ノ記載事項ニ對シテ土地所有者ハ依然トシテ異議ヲ主張スル途カナクテハナラス。斯ク立論スル者モアリマス。唯今述ヘタヤツナ論ハアリマスカ、今日ノトコロテハ先刻オ話しタ通りノ次第テ、未タ判決例カナイノテアリマスカラ裁判上ニ於テハ解釋ハ一定シテ居ラヌノテアリマス。私一己ノ見解トシテ試ニ一言シテ見レハ調書ヲ作ツテモ其調書ニハ何等ノ效力モナク土

地所有者毫モ其拘束ヲ受クルコトカナイトシタナラハ所謂調書ノ作成ハ全ク法律上無意義ノモノニ歸スルノテアリマスカラ、斯ノ如キ解釋ハ私ハ執ラヌノテアリマス。サレハトテ現ニ調書ニ記載スヘキ事項ニ對シ其場ニ於テ異議ヲ唱ヘテ居ルニ拘ラス、調書ヲ作ツタカラト言ウテ土地所有者カ其調書ノ所載ニ從ハネハナラヌ道理モナイノテアル。土地所有者カ立會ハヌ場合テモ收用審査會ニ對シテモ自己ノ主張ヲ爲スコトカ出來ヌトスルハアマリニ調書ニ重大ナル效力ヲ認ムルノテアルト思ヒマス。調書ノ作成ハ法律カ命令シテ居ルノテハアリマセヌカ、調書ヲ作ルハ起業者

ニ取テハ收用手續ヲ遂行スルニ便宜ナルモノテアリ、且争ヲ絶ツノ方法ニモナリマスカラ調書ヲ作ル方カ宜シイト思ヒマス。サテ其調書ヲ作ルニ當ツテ土地所有者カ異議ヲ述ヘタナラハ其異議ノアル所ヲ調書ニ記載シテ置キ以テ他日ノ爲メニ其關係ヲ明ニスルカ極メテ適當ナル取扱方テアルト思ヒマス。而シテ若シ異議アルニ拘ラス其異議ヲ無視シテ之ヲ調書ニ記載シナカツタナラハ其異議ヲ唱ヘタ部分ニ就テハ土地所有者ハ拘束セラレナイモノテアルト私ハ解釋スルノテアリマス。私ノ意見ハ右ニ述ヘタ通りテアリマスカ、兎ニ角種々異説モアツテ孰レノ解釋カ正シイカハ尙研究ノ餘地アル問題トハ思ヒマスカ、事情ノ如何ヲ問ハス調書サヘ作レハ土地所有者ハ最早之ニ對シテ異議ヲ述ヘルコトカ出來ヌノテアルト云フハ甚タ其當ヲ得ヌト思フ、行政訴訟ニ於テ被告タル收用審査會ノ側カラ往々斯ノ如キ議論ヲ唱ヘマスカ、事實ヲ審問シテ見ルト市町村長ノ立會ヲ以テ調書ヲ作ルニ至ツタ原因ハ穩當ナラサルモノカアリマス。若シ斯ノ如キ解釋カ果シテ正當テアツテ、苟モ市町村長ノ立會ヲ以テ作ツタ調書ニハ土地所有者ハ絶對ニ服從セネハナラヌナラハ是モ亦土地所有者ノ利益ヲ蹂躪スルノ甚タシキモノト謂ハネハナラヌ。

第四收用スルニ當テハ起業者ハ先ツ所有者ト協議ヲ遂クヘク協議成ツタナラハ所謂當事者ノ合意ニ依ルモノテアリマシテ茲ニ賣買契約カ成立スルノテアル。是モ法律問題トシテ學者ノ論スル所テアリマスカ、私ハ收用處分テハナイ、強制テハナイ、所有者ト起業者トノ間ニ民法上ノ契約カ成立スルノテアルト云フカ一般ノ說明テアツテ、私モ亦之ヲ是認スル者テアリマス。而シテ協議成ラサルトキハ御承知ノ如ク起業者ハ止ムヲ得ス收用審査會ノ裁決ヲ求ムル段取トナリマス。此裁決ヲ求ムルニ當ツテハ其申請書ニ添、附スヘキ書類ハ法律ニ列舉シテアリマス。起業者ハ又所有者ニ對シテ申請ヲ爲シタル事實ヲ通知セネハナラナイ。地方長官ハ法律ノ命スル所ニ從テ市町村長ヲシテ書類ニ記載セル事項ノ公告ヲ爲サシメテ公衆ノ縦覽ニ供セシメル、土地所有者ハ縦覽期間ノ



初日から二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ提出スルノ順序テアリマス。法律ノ定ムル所ハ右ノ通りテアリマス。土地所有者ニ對スル通知ハ何テアルカト云ヘハ起業者カ收用審査會ノ裁決ヲ求メタル事實ノ一片ノ通知ニ過キナイノテアリマスカラ之ニ依テハ申請ノ内容ヲ知ルコトハ固ヨリ出來マセヌ内容ニ至テハ縦覽期間内ニ公告其モノニ就テ確メルヨリ外ニ途ハナイノテアリマス。何故ニ事柄ノ通知ヲ命セヌカモ分リ兼ねマス。是ハ別トシテ、扱テ公告ヲ覽テ内容ヲ確メ何カ異存ヲ言フヘキ事カアレハ公告ノ初日から二週間内ニ異存ヲ申立テネハナラス、二週間モ所有者ニ取テハ長イ期間テハアリマセヌ、加之若モ此期間内ニ意見書ヲ提出シナカツタナラハ如何ナル結果ヲ生スルカ、法律ハ意見書ノ不提出ニ如何ナル效果ヲ附シテ居ルカ、是ハ又法律ニハ明言シテ居リマセヌ、收用法ニハ簡單ニ意見書ヲ差出スコトヲ得ト云フノミテアリマシテ、意見書ヲ提出シナカツタ場合ニ所有者ノ蒙ルヘキ不利ノ何タルヤハ定メテナイノテアリマス。茲ニ於テ意見書ノ不提出ハ土地所有者ニ何ノ不利ヲ與ヘヌカ、不利ヲ與ヘルトシテモ如何ナル不利テアルカ、此問題ニ付テモ議論カアリマス、私ハ所有者カ二週間内ニ意見書ヲ提出シナカツタナラハ最早争フコトノ出來ナイモノテアルト解釋シテ居リマス、近時ノ行政裁判所ノ判例ハ同一ノ解釋ヲ執ルノ傾向テアルト信シマス、所有者カ意見書ヲ提出セサルトキハ收用審査會ハ起業者ノ申請ニ從テ裁決ヲ爲シテモ其裁決ハ違法テナイト判決シタ例ハ幾多アリマス、私ハ斯ク解釋スルヲ正當ナリト信スルノテアリマス。實際ニ於テ如何ト云ヘハ十四日ハ短イ期間テモアリ、土地所有者カ往々ニシテ此期間ヲ超過スルコトカアルト見エテ行政裁判所ニ現ハレル事件ニ中々多クアリマス。而シテ法律ノ定ムル短期間内ニ異議ヲ述ヘサルカ爲ニ土地所有者カ自然拘束ヲ受クルニ至ルコトカ正シイ解釋テアルナラハ是亦土地所有者ニ思ハサル損失ヲ被ラシムルモノテアツテ收用法ノ規定ハ個人ノ權利ヲ尊重スルニ於テ遺憾多シト思フノテアリマス。

第五收用ノ效果ハ何レノ時期ニ生スルモノテアルカノ問題ハ法律家ノ間ニハ大ニ議論ノアル所テアリマスカ、法律家トシテ興味アル程ニハ實際ノ利害關係ニハ切實ナルモノテアリマセヌカラ諸君ニ對シテ詳クお話スルニハ及フマイト思ヒマス、併シ後ニお話スル點ニ大ニ關係ヲ有ツテ居ルカラ茲ニ一應ノ御紹介ヲ致シタイト思ヒマス、或ル人ハ起業者ニ於テ補償金額ノ支拂ヲ爲シタ時ニ收用ノ完全ナル效果ヲ生スルノテアルト説イテ居リマス、又或ル者ハ補償金額ノ支拂ヲ爲サ、ルモ收用審査會ノ裁決書ヲ土地所有者ニ送達シタ時ニ既ニ收用ノ效果ヲ生スルト論シテ居リマス、先ツ收用ノ時期ハ裁決書ニ書カネハナラヌ、何レノ時ヲ以テ收用ノ時トスルカハ法律カ裁決書ニ定ムヘキコトヲ命シテ居リマス、然ル處收用法ヲ見マスト其第六十三條ニ「土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得ス」ト明言シテ居ルカラ此條文ノミ見ルト裁決書ニ定メタ收用時期カ到來スレハ其收用時期ノ到來ニ因ツテ起業者ハ當然所有權ヲ取得スルヤウニアツテ、何等疑ヲ挾ム餘地ナキカノ如クアリマス、然ルニ次條即チ第六十四條ニハ裁決ノ後ニ至テ收用物件カ天災其他不可抗力ニ依テ滅失シタルトキハ其危險ハ起業者ノ負擔ニ歸スヘキコトノ趣意ヲ定メテ居リマス、土地カ滅失スルコトハ極メテ稀有ノ事テアリマスカ、動産ノ滅失スルコトハ隨分珍シクハアリマス、マイ、斯ノ如キ場合ニ何人カ損失ヲ負擔スルカト云フト起業者テアツテ、收用セラル、所有者テハナイ、而シテ起業者ハ何レノ時カラ危險ヲ負擔スルカト云ヘハ法律ハ裁決ノ後ト定メテ居ル故ニ一度裁決カアツタナラハ、夫ヨリ以後ハ起業者ニ於テ當然損失ヲ負擔セネハナラヌコトニナルノテアル、ゾコテ申スマテモナク收用ノ時期ハ裁決ヲ以テ定ムルノテアリマスカラ其時期カ裁決ノ後タルコトハ明テアツテ、第六十四條カラ見ルト苟モ裁決カアツタナラハ收用ノ時期未タ到ラサルモ起業者危險ヲ負擔スルニ至ルノテアル、然ルトキハ其時期到ラスシテ所得權ハ取得セサルニ拘ラス損失ハ之ヲ負擔セネハナラヌ結果トナルカラ是ハ條理ニ

合ハヌモノテアル。元來危險ハ所有者ニ於テ負擔スルカ通則テアルカラ既ニ起業者ニ於テ危險ヲ負擔スル以上ハ其時ニ於テ所有權モ亦起業者ニ歸屬セルモノト解釋セネハナラヌト云フ論カアリマシテ、今第六十三條ト第六十四條トヲ對比シテ見ルト起業者ハ收用ノ時期來ラサレハ權利ヲ取得シナイ、未タ所有者トナラサルニ其前ノ裁決ニ因ツテ所有者ト同シク危險ハ負擔スルコトニナリマスカラ、此二條ハ主義ニ於テ矛盾シテ居ルヤニ見エ、又現ニ矛盾シテ居ルト説明スル學者モアルノテアリマス。去リナカラ私ノ見ル所ヲ以テスレハ收用ノ效果ヲ生スルハ補償金ノ支拂ニ在リト云フ説ヲ執リマセヌ、又收用審査會ノ裁決ニ在リトモ解釋ヲシマセヌ、此二説ハ共ニ正鵠ヲ得テ居ラヌト思フノテアリマス、私ハ法律ノ明文ニ在ル通りニ收用時期カ到來シタナラハ所有權ハ起業者ニ於テ取得スルモノト極メテ平易ニ解スルノテアリマス、法律ニハ收用時期マテニ起業者ヤ所有者ノ爲スヘキコトヲ定メテ居ル明條ハ幾多アリマス、其内容ヲ述フルハ煩シケレハ略シマスカ、收用法第六十條、第六十一條、第六十二條等何レモ收用時期ヲ標準トシテ居リマス、補償金ノ支拂ニ付テモ起業者ハ其時期マテニ補償金ノ支拂ヲスヘシ、場合ニ依リテハ供託ヲスヘシト命シテアル、斯ク收用ノ時期マテニ補償金ノ支拂ヲ爲スカ、或ハ之ヲ供託スヘシトアルカラ收用ノ效果ハ補償金ノ支拂ニ在ルト云フ説モアル譯テアリマセウ、ケレトモ法律ノ云フ所ハ收用ノ時期マテニ拂ヒ渡スヘシト云フニ在ルノテ、必スシモ收用ノ時期其時テナケレハナラヌ道理ハナイノテアリマス、他ノ言葉ヲ以テ云ヘハ收用ノ時期ヲ最終ノ期トシテ居ルニ過キマセヌ、全體期限ハ何人ノ爲メニ設クルカト云ヘハ支拂ヲ爲スヘキ債務者ノ利益ノ爲メニ設ケタモノテアル、普通ノ債務テ然リ、收用ノ場合ニ於テモ收用ノ時期マテニ補償金ヲ拂ヒ渡スヘシト云フハ起業者ノ爲メニ設ケタル期限ナルハ論ナク、從テ起業者タル債務者ニ於テ其利益ヲ拋棄シテ毫モ相手方ノ利益ヲ害スルコトハアリマセヌ、故ニ收用ノ時期來ラサル前補償金ノ拂渡ヲ爲シ、又ハ之ヲ供託シテモ少シモ差

支ハナイノテアル、法律ハ所有者ニ在ツテハ收用ノ時期マテニ引渡ヲ爲シ、起業者ニ在ツテハ收用ノ時期ニ補償金ヲ拂ヒ渡シ、雙方カ交換的ニ其各自ノ義務ヲ履行スヘキコトヲ豫想シテ居ツテ、而モ時期來ラサルニ殊更拂渡ヲ爲ス者モナカルヘケレハ收用ノ時期ト云フモ、補償金拂渡ノ時ト云フモ、事實上ニ於テハ其ノ時期ニ差違ハナイヤツテアリマスカ、收用ノ時期來ラサルニ所有者カ補償金ノ拂渡ヲ爲シタナラハ如何補償金ノ拂渡ニ因ツテ所有權カ移轉スルト云フ說ニ從ヘハ收用ノ時期來ラサルニ起業者ハ所有權ヲ取得スルコトニナリマスカ、法律ハ收用ノ時期ニ於テ所有權ヲ取得スト定メテ居ル、其明文ヲ如何センヤテアリマス。況ヤ所有權ノ取得ハ法律ノ力ニ依ルノテアリマスカラ、其前所有權ノ移轉ヲ認ムルコトハ出來ナイト思ヒマス。尤モ起業者カ收用ノ時期マテニ補償金ノ拂渡ヲ爲サ、レハ審査會ノ裁決ハ其效力ヲ失フト定メテアリマスカラ、起業者カ期限前ニ拂渡ヲ爲サ、ルトキハ補償金ノ拂渡ト云フモ、收用ノ時期ト云フモ、結局同一ニ歸著スルコトニハナリマス。併シ是ハ唯事實ニ於テ同シテアルト云フニ止マリ、法律ノ解釋トシテハ全ク格別ノ思想テアリマス。次ニ危険ハ所有者ノ負擔ニ歸スヘシトノ原則ヨリ立テル議論ハ全然謬テ居ルト思ヒマス。民法ト雖所謂債權者主義ヲ執ツテ所有者主義ヲ執ツテ居ラヌノテ收用法ノ危険負擔ノ思想ハ却テ我民法ニ適合シテ居ルノテアリマス。

法律上ノ議論ハ此邊ニ止メテ置キマシテ既ニ收用時期到來シ起業者カ裁決ニ因ツテ定マリタル補償金ノ拂渡ヲ爲サントシタルニ補償金ノ額ニ就テ土地所有者カ異存ヲ唱ヘテ之ヲ受領セサルトキハ起業者ハ補償金ヲ供託シテ事業ノ執行ヲ進メルコトカ出來ルノテアリマス。收用法ハ第八十三條ニ、訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用ヲ停止セスト規定シテ土地所有者ニ於テ異議カタツテ補償金ノ額ニ關シテ司法裁判所ニ訴ヲ起シテモ其他ノ點ニ關シテ收用審査會ノ裁決ヲ違法ナリトシ、行政裁判所ニ其裁決ノ取消ヲ求ムル訴ヲ提起シテモ、起業者ハソレニハ頓着ナク事業ヲ

進行スルニ差支ナイ、斯ノ如キハ敢テ土地收用ナル行政處分ニ特別ナル規定テハアリマセヌ、行政裁判法ニ、行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セヌト規定シテ居ツテ、云ハ、一般ノ原則ト申シテモ宜イノテアリマス。併シナカラ收用ノ時期ニ違シタナラハ起業者ハ恰モ自己ノ所有地トシテ處分スルコトカ出來テ、處分スルハ止ムヲ得ストシテモ土地所有者カ法廷ニ於テ其主張ヲ貫カントスル證據ハ滅シテ了フコトニナツテ、訴訟上其主張カ困難ニ陥ル場合カアリマス、所謂證據保全ノ方法モアリマスケレトモ萬全ヲ期スルコトハ到底出來マセヌ、是モ所有者ニ取ツテハ隨分忍ビ難イコトテアラウト思ヒマス。

第六ニハ土地收用ニ關スル訴訟或ハ訴訟ハ裁決書ノ謄本ノ交付ヲ受ケタ日ヨリ二週間テアリ、補償金額ニ付司法裁判所ニ訴ヲ起スハ三ヶ月ト定メテアリマス。斯ノ如キ短イ期間ハ其例ハアリマスカ寧ロ例外ノ場合ト云ハネハナラヌ、殊ニ民事ノ訴訟ニ付テハ殆ト類例カナイト思ヒマス、是亦土地ノ收用ニ付所有者ニ取ツテハ甚タ不利ナルモノテアリマス。收用審査會ノ裁決ニ關シ行政訴訟ヲ起スニ當ツテ金額ヲ争フコト往々其例カアリマシテ素人ノ訴訟ニハ珍シクナイノテアリマス、然ルニ行政訴訟ハ三ヶ月位テハ中々落着シマセヌカラ私ハ民事訴訟ハ三ヶ月内ニ起サヌト出訴期間ヲ經過スルニ至ルヘキコトヲ原告ニ注意スルコトニ致シテ居リマス。

第七終リニ彼ノ内閣ノ認定ニ基キ收用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シタル以上ハ其土地ハ認定ヲ經タル公益事業ニハ缺クヘカラサルモノトシテ定マルカ故ニ、縱令土地ノ一部分カ其事業ノ爲メニハ不必要テアツテモ、例ヘハ鐵道用地トシテハ左程廣ク收用シナイテモ事業ノ遂行ニ差支ナクトモ、其不必要ナルコトヲ理由トシテ争フコトカ出來ナイト論カアリマシテ、此論ニハ中々賛成者カアリマス。現場ニ就テ見レハ線路カ敷設シテアルテモナク、又倉庫カアルテモナク、貸地ノ形トナツテ諸種ノ商人カ其地テ營業ヲシテ居ルト云フヤウナ例カアリマス、斯ノ如キ場合ニ内閣ノ認定ニ

對シテハ其當否ヲ爭フ途カ法律ニ認メテナイカラ止ムヲ得ナイト論スルノテアリマス、私ハ此議論ニ賛成スルコトヲ躊躇シマスカ、一應ノ理由ハアルヤウニ思ハレマス、而シテ若シ是カ正シイ説テアルナラハ、土地所有者ニ取ツテハ非常ノ迷惑テアリマス、

以上列舉シマシタ七點ハ土地收用法ノ上ニ於テ所有者タル個人ノ側カラ見レハ随分壓制ナル規定ト思ハレマス、仔細ニ研究ヲ遂ケタラハ此外ニ尙幾多アリマセウト考ヘマス、大體收用法ハ公益事業ノ遂行ニ便センカ爲メニ制定セラレタルモノテ、個人ノ利益ヲ犠牲ニ供スルハ固ヨリ當然テアリマス、併シ法律ノ規定自體ニ付テモ立法上ノ見地カラ大ニ議スヘキ所尠ラスト思ヒマスカ、是ハ立法論ニ屬シマスカラ略スルコト、シマス、事業ニ當ラル、諸君ハ現行法ノ下ニ活動スルヨリ外ハアリマセヌカ、先ニ述ヘマシタ通り法律カ私ノ見ル所テハ程度ヲ超エテ壓制ト思フ廉カ甚クナイト思フニ付テハ、セメテハ此法律ヲ運用スルニ當ツテ十分個人ノ權利利益ヲ尊重シ、能ク其言フ所ヲ聽キ、其懇フル所ヲ察シ、情ヲ盡シ理ヲ説キ、以テ圓滑ニ交渉ヲ重ヌルカ彼我ノ爲メニ得策テアルト思ヒマス、斯クスレハ土地所有者カ感情ニ驅ラレテ徒ラニ異議ヲ主張スルコトモ自ラ弭ミ、訴訟モ自然減スルノ結果トナリ、事業ノ將來ノ爲ニモ利テアルコトハ申スマテモアリマセヌ、行政訴訟トナツテカラ百方手段ヲ竭クシテ防禦ノ途ヲ講スルナトハ甚タ感服シ兼ネマス、實例ニ於テモ曲解トカ詭辯トカ思ハル、辯論カアルノミナラス、訴訟ヲ審理シテ見ルト調査不十分ニシテ手續上遺憾ナルコトモアリ、或ハ起業者ニ對スル種々ノ關係ヨリシテ強テ起業者ノ便利ヲ圖リタルニハ非サルカト推測セラル、場合モアリマス、從テ法廷ニ於テ辯解ノ出來ヌコトモ往々アリマス、私ハ誠ニ不都合千萬テアルト思ヒマス、斯ク私カ申シマストソレハ起業者ヤ地方官ヲ責ムルコト嚴ニ過クルモノテアル、土地所有者ニモ甚タ宜シカラヌ者カアツテ種々ナル策ヲ講シ謂ハレモナイ苦情ヲ唱ヘテ起業者ノ協議ニ應セス、殊更ニ事業ノ執行ヲ妨クル愚物カアルカラスノ如キ者ニ

對シテ夫々相當ノ方策ヲ執ラネハナラヌ、所有者カ惡イカラ自然壓迫モ加ヘルコトニ至ルノデア  
 ルト云ハレルノデアラウト思ヒマス、是モ誠ニ御尤ノ次第テアツテ決シテ無理テハアリマセヌ、去  
 リナカラ土地所有者ハ揃ヒモ揃ツテ皆不都合ナル者テモナイノミナラス、眞面目ナル者ハ却テ心  
 中不服ナカラモ泣寝入ニ終ハラネハナラヌコトニナツテ、其迷惑察スルニ餘アリテアリマス、之ニ  
 反シテ所有者中狡猾ナル者アリ、頑迷ナル者アツテ、他日法廷ニ争ハネハナラヌ虞アル場合ニ於テ  
 ハ自己ノ立脚點ヲ明ニスルニ必要ナル手段ヲ講シ、又必要ナル證據ヲ保存スルノ用意ヲ怠ラヌコ  
 トニ注意セネハナリマセヌ、斯ノ如キ輩ニ對シテハ法律ヲ勵行スル外ハナイ、而シテ法律ヲ勵行ス  
 ルニ當テハ如何ナル手續ヲ盡シテ置イタナラハ他日訴訟ニ於テ十分自己ノ主張ヲ明確ニスルコ  
 トカ出來ルカ、一言以テ之ヲ蔽ヘハ唯手續ヲ鄭重ニスルニ在ルノデアリマス、行政訴訟ノ實例ヨ  
 リ推セハ苦情ヲ唱フル點ハ大概極ツテ居ルト思ヒマスカラ、之ニ對應スル策ヲ講スルコトハ容易  
 テアルト思ハレマス、是等ノ防禦方法ニ付テ心付ノ廉ヲ述ヘテ見タイト考ヘテ居リマシタカ、存外  
 ニ時間カ經チマシテ而モ面白クナイオ話テ諸君ニ御迷惑ヲ懸クルモ私ノ本意デアリマセヌカラ、  
 本日ハ此邊ニ止メテ置キマシテ他日好機會ヲ得テ重ネテオ話致スコトニ願ヒマス、要スルニ收用  
 法既ニ非議スヘキ箇所甚カラスニ起業者ハ勿論、行政ノ局ニ當ル者カ法律ヲ楯トシ、官權主義ヲ振  
 リ廻ハシテ土地所有者ニ壓迫ヲ加フルコトナキヤウニ御注意ヲ請ヒタイノデアリマシテ、本日ノ  
 講話ノ要旨ハ茲ニ在ルノデアリマス、

長ク諸君ノ清聴ヲ汚カシテ甚タ恐縮ニ存シマス、私ノ卒業ハ覺東ナイト今更ノ如ク考ヘマスカ折  
 角ノ古市會長ノ御依頼デアリマスカラ聊カ私ノ所懐ヲ據ヘテ諸君ノ御耳ヲ瀆カシタ次第デアリ  
 マス、(拍手)

○會長古市公威君 何カ御質問テモアリマセヌカ、御質問カアレハオ答ヘヲ願フコトニ致シマス、

別ニ御質問モナイヤウテアリマスカラ諸君ヲ代表シテ茲ニ岡野博士ニ對シテ厚ク御禮ヲ申述ヘ  
 タイト考ヘマス。御同様ニ應用ノ學問ニ關スル業務ニ從事スル者特ニ土木ニ關係スル者ハ他人ト  
 交渉ヲスルコトカ最モ繁多テアル。諸君ノ中ニ實地ニ當ラレルオ方ハ第一ニ厄介ニナルノハ此收  
 用法テアツテ、隨分ノ力爲ニ争ヒヲ爲サツタ方々カアラウト考ヘマス。此事ハ鄭重ノ上ニ更ニ鄭重  
 ニ心得テ居ラネハナラヌト思ヒマス。岡野博士ハ目下ノ御職掌トシテ此事ニ就テハ餘ホトオ手掛  
 ケニナツテ居ラル、コト、考ヘマス。尙我々ノ心得トシテ伺ツテ置キタイ事カアツタヤウテアリ  
 マスカ、時間ノ爲ニソレヲ省略セラレタノハ甚タ残念ニ存シマス。併シナカラ今日伺ツタトコロテ  
 モ大ニ我々ノ心得ニナルコトカアルト存シマスノテ、之ハ諸君ト俱ニ厚ク御禮ヲ申上ケネハナラ  
 スト存シマス。尙今講演ノ終ニ申述ヘラレタヤウニ若シ時カ許シタナラハオ述ヘニナル筈テアツ  
 タ事項モ會誌ニ登錄スル際ニ縱令其一部テモ我々ノ心得トナルヘキ事柄ハ御登載ヲ願フコトニ  
 イタシマス。諸君ニ代ツテ茲ニ岡野博士ニ對シテ厚ク御禮ヲ申上ケマス。(完)